

平成29年産

水稲栽培ごよみ

ヒノヒカリ・実りつくし

三井地区農業振興協議会
JAみい
久留米普及指導センター

月	5月		6月			7月			8月			9月			10月																					
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中																				
生育相	は種	育苗		田植			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			成熟期		成熟期												
水管理			浅水管理			間断灌水			中干し			間断灌水			浅水管理			間断灌水																		
主な作業			●基肥 ●ミネラルG又は珪鉄 ●麦わらすき込み (耕起前)			●除草剤 ●田植坪60株植え			●茎数の早期確保			●穂肥1回目 (幼穂長3~5mm程度)			●穂肥2回目			●実りつくし出穂期 ●ヒノヒカリ出穂期			●根の健全化に努める			●落水		●ヒノヒカリ成熟期(出穂後41日頃)		●実りつくし成熟期(出穂後44日頃)								
	病害虫防除対策	粉剤体系			田植3日前~当日 ウツカ類・紋枯病 リンパー箱粒剤 プリンス 50g/箱			スクミノン 4kg/10a			ジャンボタニシ			トレボン粉剤DL 4kg/10a			ヨメメカウカ			ダブルカット 4kg/10a			バリダフロアブル 4kg/10a			いもち病・紋枯病			カムメシ いもち病・ウツカ 多クシ粉剤DL ビームプロド 4kg/10a			スタークル粉剤DL 3kg/10a			ウツカ・カムメシ	
		液剤体系			田植3日前~当日 ウツカ類・紋枯病 リンパー箱粒剤 プリンス 50g/箱			スクミノン 4kg/10a			ジャンボタニシ			トレボン乳剤 1000倍			ヨメメカウカ			ダブルカット 1000倍			バリダフロアブル 1000倍			いもち病・紋枯病			カムメシ いもち病・ウツカ ビームプロド+多クシ アロードフロアブル 1000倍			スタークル水溶剤 2000倍			ウツカ・カムメシ	
粒剤体系				緑化期~当日 ウツカ類・いもち病 リンパーL粒剤 プリンス 50g/箱			スクミノン 4kg/10a			ジャンボタニシ			バタンバツサ粒剤 4kg/10a			ヨメメカウカ			アロード 4kg/10a			バタン粒剤 アロード			スタークル粒剤 3kg/10a			ウツカ・カムメシ								

※白葉枯病対策 プイゲットプリンスリンパーL粒剤 50g/箱当り 緑化期~田植当日 ※いもち病対策 コラトップ粒剤5 3~4kg/10a当り 出穂5日前まで

土づくり

- 1.地力増進のため、麦わら・稲わらは全量すき込みましょう。または、大地めぐみちゃん(堆肥)1t/10a 施用し有機物をおぎなひましょう。
- 2.土壌改良資材(ミネラル G または、珪鉄を100~200kg)を施用しましょう。

塩水選と種子消毒

○塩水選

種子の種類	比重	水10ℓに溶く量	
		食塩(kg)	硫安(kg)
うるち	1.13	1.94	2.68

(食塩か硫安かどちらか一方を溶く)

生卵による目安
1.13

○種子消毒(ばか苗病・いもち病・心枯線虫・もみ枯細菌病)
水10ℓ(粉5.5kg分)当り
(テクリードCフロアブル 50ml)
(スミチオン乳剤 10ml)
の混合液に、24時間浸漬する。
※薬剤の量を厳守する。
※浸漬中に2回の攪拌を行なう。
○種子消毒後は水洗いせず、その後停滞水につけ1日1回水を換え、芽出しを行なう。
※種子消毒の残液が河川や地下水などに流入しないよう注意する。

施肥基準

○ヒノヒカリ

施肥例	基肥		施肥量	穂肥		施肥量
	みい極	又はちくごのめぐみ		みい極		
I	464	444	40kg	606		20kg
II	一発タイプ 元ヒ一発2号		45kg			-

○実りつくし

施肥例	基肥		施肥量	穂肥		施肥量	
	みい極	又はちくごのめぐみ		1回目	2回目		
I	464	444	40kg	606	206	15kg	10kg
II	一発タイプ 晩生一発エムコート44		45kg			-	-

※穂肥の2回目は1回目の7日後。

品種特性表

(出穂期・成熟期はJAみい調査データ)

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	穂長 cm	穂幅 cm	m ² 当り 穂数本	耐倒 伏性	玄米 千粒重g	10a当り 収量 kg	品質	食味	耐病性	
											いもち	白葉枯
ヒノヒカリ	8/28	10/6	84	19.1	380	やや弱	22.7	555	上の中	上の中	やや弱	やや弱
実りつくし	8/31	10/13	83	20.5	350	中	23.9	597	上の上	上の上	やや弱	中

※実りつくしは、いもち病に弱いので適期防除に努める。

農薬使用上の注意

- ① 粉剤は散布後、殺菌剤で6時間、殺虫剤で3時間以内に降雨にあった場合は効果が劣るので天候に注意して散布しましょう。
- ② 農薬によるミツバチへの危害防止のため、稲の開花期に農薬の使用は避けましょう。
- ③ 安全・安心な農産物を確保するため(ポジティブリスト制度)以下のことに注意しましょう。

- ・この暦は、平成29年1月時点の登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬の登録内容は随時変更されますので、使用上の注意をよく読んで使用基準を遵守しましょう。
- ・周辺作物へ農薬の飛散がないように注意しましょう。

※収穫前に栽培日誌の提出をお願いいたしますので、農薬による防除を行った場合必ず記入して下さい。

一般水田雑草除草剤使用基準

◎初・中期一発除草剤

時期	除草剤名	10a当り 使用量	使用時期	使用目安時期 (移植後日数)
初中期一発	ガンガン1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ3葉期	0~12日
	サラブレットKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ2.5葉期	0~10日
	クサトリエースLジャンボ	10パック(小包装)	移植後3日~ノビエ2.5葉期	3~10日
	パットフルLジャンボ	10パック(小包装)	移植後1日~ノビエ2.5葉期	1~10日
	パッチリフロアブル	500ml(1本)	田植同時~ノビエ2.5葉期	0~10日
	ポデーガードフロアブル	500ml(1本)	移植後5日~ノビエ3葉期	5~12日

- ① 除草効果を高めるため、散布後7日間以上水を保つ。
 - ② 移植時処理については、田植同時散布機で施用する。
 - ③ 次のような事項は被害が生じる可能性があるため注意しましょう。
- ・田面が不均一な場合、軟弱苗や極端な浅植え等での使用
 - ・強風下での使用
 - ・フロアブル剤、ジャンボ剤の漏水田での使用(特にジャンボ剤については水深5cm程度を保つ。)

◎中・後期除草剤

適用雑草	除草剤名	使用量	使用時期	使用上の注意
		10a当り		
広葉雑草 コナギ・ウリカワ等	バサグラン粒剤	3kg	移植後15~40日(広葉のみ) ただし、収穫60日前まで	落水散布又は ごく浅く温水して散布
水田一年生雑草 ノビエ(5葉期)	クリンチャーバスME 液剤	1000ml	移植後15日~ノビエ5葉期 ただし、収穫50日前まで	
イネ科雑草 ノビエ(6葉期)	クリンチャーEW	100ml	移植後20日~ノビエ6葉期 ただし、収穫30日前まで	温水散布又は落水散布

- ※①薬剤ごとに適用薬齡、水管理、使用時期が異なるのでラベル等をよく読んで使用して下さい。
- ②効果を高めるため少なくとも3日程度は散布時の状態を保つ。降雨があっても7日間は落水しない。

米は全量JAへ

平成29年2月作成